

令和2年度 世界へのトビラ事業 オンラインミーティング開催結果報告

1. 日 時 令和2年8月26日（水）14：00～15：00

2. 会 場 オンラインで各所（Zoom を利用）

3. 参加者 10名
日本人講師 4名 アドバイザー 6名

4. 開催内容

司会・進行：難波主査 伝達事項：石戸

時 間	内 容
14:00 ～ 14:30	協会より伝達事項 ・実施要綱の改訂について ・コロナウィルス感染防止確認シートについて ・質疑応答
14:30 ～ 15:00	意見交換会 ・実際にオンラインシステムを使っている方の意見 ・学校に出入りしている方の意見 ・その他、具体的内容や手法についての意見交換

ミーティング概要

○ 協会からの伝達事項について（以下資料確認とともに進める）

① 「世界へのトビウ」事業の実施要綱の改訂について

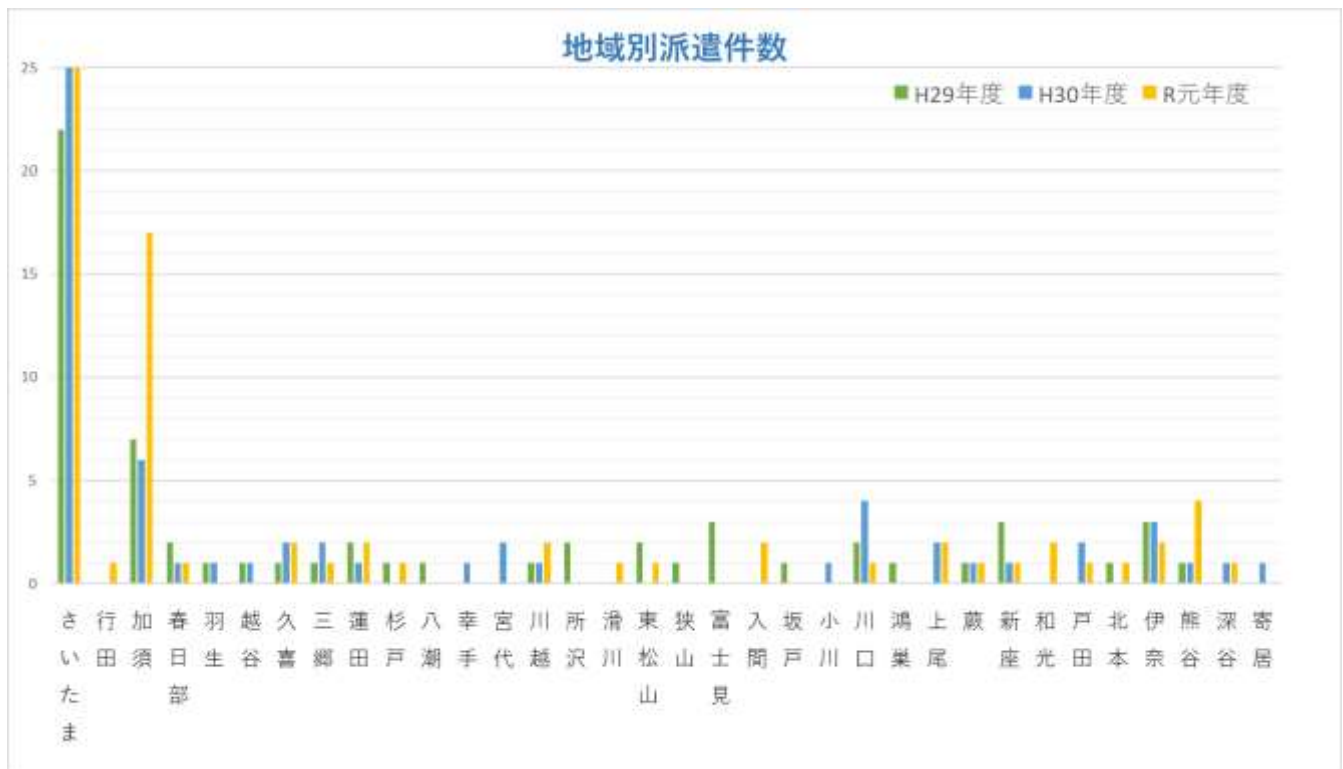
種別	対象	金額	備考
謝金※	講師（外国人/日本人）	5,500 円	1 回 1 名あたり。
	アドバイザー	6,500 円	事前の打ち合わせ費用とそれに係る交通費を含む。
交通費	講師（外国人/日本人）	実費	当日の各講師及びアドバイザーの自宅から開催地まで。 （各講師等に係る交通費は事前にお知らせします）
	アドバイザー		
保険料	—	—	当該事業に係る保険。（各団体等で加入しているもの）
その他	—	実費	調理実習の材料費。体験学習等の為に講師が新たに購入したものの費用。事業が昼食をまたぐ場合などの昼食費、事業開催中に交通費が発生する移動が伴う場合等。

今年度からアドバイザーの謝金を 5,500 円から 6,500 円へ変更した。講師の謝金変更は無しで今まで通りの 5,500 円。アドバイザー・講師ともに、事前打ち合わせに係る交通費を含めた謝礼金になる。当日の交通費は今まで通り支給となる。

内 訳					内 訳						
	講師	謝礼額	交通費 (+)	【所得税】 【復興特別所得税】 10. 21% (-)	講師受取金額		講師	謝礼額	交通費 (+)	【所得税】 【復興特別所得税】 10. 21% (-)	講師受取金額
打合せ	整理番号 〇〇〇〇	/	(電車) 〇〇駅-〇〇駅	/	/	事業当日	整理番号 〇〇〇〇	¥6,500	¥480	¥712	¥6,268
	アドバイザー 〇〇 〇〇〇		〇/〇 さいたま市立 〇〇中学校				¥480				
事業当日	整理番号 〇〇〇〇	¥5,500	(電車) 〇〇駅-〇〇駅	/	/	合計	整理番号 〇〇〇〇	¥5,500	¥960	¥659	¥5,801
	アドバイザー 〇〇 〇〇〇		¥480				アドバイザー 〇〇 〇〇〇				
合計	整理番号 〇〇〇〇	¥5,500	(打ち合わせ) + (事業当日)	/	/	合計	整理番号 〇〇〇〇	¥5,500	¥960	¥659	¥5,801
	アドバイザー 〇〇 〇〇〇		¥480				アドバイザー 〇〇 〇〇〇				



各事業ごとに作成してお渡ししている協会からの明細も、このようにすっきりと変更。今回の謝金変更の大きな理由としては、協会の事務作業の効率化の為でもある。



本来は交通費も謝金も全員一律 10,000 円のようにしてしまえば、事務作業は効率的となる。ただ、上記グラフにある通り過去 3 年分の派遣件数をみると県内全域で募集をしているが、さいたま市からの依頼が大部分を占めていることがわかる。大きな金額変更をしないでハードルを低く設定したまま、より事業の周知に努めることも引き続き必要なので、今後も様子を見て必要な変更を考えていきたい。

協会の思いとして、アドバイザーは外国人講師たちを取りまとめていただくために、事前の依頼先との打ち合わせや講師との内容についての打ち合わせは必要不可欠だと考えている。その思いも含めて、今回変更としたのでご承知いただきたい。当日、講師が安心して授業に臨めるよう、今後も準備を徹底してもらいたい。

H29-R元 打ち合わせの交通費について (過去3年間)			
	1回の打ち合わせに係る交通費平均	同市内打ち合わせの交通費平均	市外打ち合わせの交通費平均
H29	¥619	¥255	¥1,211
H30	¥587	¥423	¥916
R1	¥785	¥375	¥1,374
平均	¥664	¥351	¥1,167

最後に、金額を 1,000 円アップに設定した理由について。上記統計を取ってみたところ、過去 3 年間の打ち合わせに係る交通費の平均は 664 円だった。打ち合わせをする場所によっては、今回上乘せした 1,000 円を超える交通費が発生するケースもあるかもしれない。

協会としては、今後内容だけではなく依頼場所にも配慮しながらアドバイザーをお願いすることで、平等な依頼を心がけていく。

② コロナ感染防止対策確認シートについて

今年の依頼状況としては現状 10 件の申請書が手元に届いている。昨年の 8 月までは 23 件の申請があったので、今年は昨年の半分の件数で推移している。9 月 10 日が今年の初めての講師派遣となるので、そこからコロナ感染防止対策確認シートを導入していく。〈別紙 1 参照〉

内容としては、学校などの依頼先と協会が安全対策を共有するシートとなっていて、上部が依頼先である学校などが参加者である生徒とともに講師受入の際注意してもらうことが書かれていて、下部には講師やアドバイザーが訪問する際に注意することが書かれている。

使用方法は、講師派遣が決定して協会が依頼先とアドバイザー・講師あてに決定通知書を出すタイミングでそれぞれに郵送して共有。依頼者はシートへのチェックをして、事業実施 3 日前までに協会に FAX かメールで提出する。アドバイザーや講師の提出はなく、チェックシートの内容を実践してもらう。

アドバイザーは外国人講師への共有を必ずしてもらいたい。毎年、年初に渡している外国人講師への注意点を利用してもらい共有の徹底をお願いする。〈別紙 2 参照〉

質疑応答

- 今後、オンラインを使用しての学校との打ち合わせは可能か？
→依頼先の担当者が許せば、TEL・メールに代わるツールとして可能。さらに、今年からは交通費込みの謝金に代わっているので、学校などに出向く代わりとしても利用可。
- マスクの使用について。フェイスシールドなども可能か？
→依頼先の担当者に確認が必要。口元が見えたほうがいいという場合には、フェイスシールドやマウスシールドの利用がマスクに代わるものとして考えられる。担当に相談した上で着用判断を。
- アドバイザー含む、講師の検温結果の協会への報告義務について、どこまで必要か？
→前日当日の各々の体温の詳細までは必要ない。ただし、1 日 1 回朝の検温実施で発熱（37.5 度を目安）している場合やいつもと体調が違うなどの異変があれば、速やかに報告するように徹底してほしい。無理をしないことが一番なので、当日まで体調の変化にアンテナを張ってほしい。

○ オンライン利用の事業展開への意見交換会について

コロナ禍での講師派遣となる今年は、現状で派遣依頼が昨年の半数に留まっているが、募集をしている以上、今後も with コロナの中で事業としての成果を残すことは必要となる。

それを踏まえて今回、こうしてオンラインで日本人講師やアドバイザーの方とつながっているように、学校とつなぐことはできないか？という観点で意見交換を行いたい。具体的にどのような形態で展開していけば、学校と講師をつなぐことができるかを検討し、今後の事業展開にも生かしていきたい。

◆現在、実際に Zoom などのオンラインシステムを利用して会議や交流などを行っている方の意見

(日本人講師・アドバイザー 金子さん)

Zoom を使って学習会やイベントを実施している。とても使いやすいためトビラ事業でも導入できたら色々な可能性が広がると思う。一方的なオンラインでの配信は一斉に話を聞かせることができていると思うが、生徒である参加者の反応を拾いながら進めることができるのは Zoom ならではの感じる。例えば、チャット機能で参加者からコメントをもらったり、グルーピングをして意見を出し合ったり、その意見を最後全員で共有したりすることが可能。

方法は様々でアドバイザーと学校の相談次第であるが、オンラインの活用はトビラ事業の今後の発展につながると感じる。

(日本人講師・アドバイザー 井上さん)

今年の3月からZoomを使って子供の学習会や講演会をやっている。Zoomの良さは金子さんがおっしゃる通りでグルーピングの使い勝手の良さなども実感しているが、今の方法はデバイスが1人1台あることが前提だと思う。ただ、現状学校の環境がそこまで整っていないのではないだろうか。トビラの授業を学校で行うとなると、まずは会場となる教室全体を映して一方的にこちらが講義をする。それを学校でスクリーンなどに映してもらおうという方法になるのではないだろうか。こちらから指示を出せても、ある程度一方的な授業になっていくことが考えられるので工夫が必要。どちらにしても学校の設備の問題が大きいと感じる。

先ほどのグルーピングでのやり方は、例えば協会のイベントとして参加者の各家庭と協会をつないで、各講師のお部屋を用意して各国を訪問してみよう！みたいな感じでイベントとして提供するのは楽しいと思う。まずは、すぐ事業にオンラインを取り入れるというよりは、協会がこんなことができますよということを示すワークショップをはさむことで、参加したいと思う学校なども出てくるのではないかな。

◆現在学校に出入りしている方たちの、設備環境に対する意見

(アドバイザー 小倉さん)

現在のコロナ禍において、Zoomを使って研修をしないと稼ぎがなくなってしまうので仕事として4月以降使用している。いろいろチャレンジして失敗も数多くした。その中で全国の参加者400人規模の研修をしたときには、スタッフが20人必要だった。参加人数が増えればその分サポートも必要となるし、通信環境の問題も発生する。

学校についても、やはり通信環境の問題があると感じる。例えばWi-Fi接続できる場所が校舎の中でも決まっていって教室では使えないとか、一度に10台のPCをつなぐことができるのかも疑問。学校によって環境は千差万別だと思う。だからこそ、いきなりすごいことをやるのではなくて、少しずつレベルアップしていくのがいいのではないかな。

(日本人講師・アドバイザー 金子さん)

学校の設備環境について、学校によると思うがさいたま市の中学校は、コンピューター室があるので1クラス単位なら生徒と講師をつなぐことは可能ではないか。また小学校では、担任の先生がPCを1台用意してクラス全体と講師をつなぎ、スクリーンで映すということは可能だと思う。教室全体を映すので、意見のある人に手を挙げてもらって先生に仲介してもらえばやり取りも可能になると思う。1クラス単位ぐらいであれば、トビラ事業も一歩踏み出せるのではないかな。

(日本人講師・アドバイザー 井上さん)

子供が通っているさいたま市の小学校でもコンピューター室があるので、1クラス単位なら対応はできるかもしれない。ただし、Zoomでやることになったのでよろしくと講師に丸投げはできない。慣れてない人に頼んでもうまくいかない。さらに、30人くらいの1クラス単位だとしてもミュートの切替えやグループの振分けなどアドバイザー以外に、もう1人くらいはサポート人員が必要だと感じる。

できることとして、一緒にOOやってみよう！というのは比較的やりやすいと思う。例えば体操

してみようとか、工作してみようとか。1時間という時間を丸々もらっても、お互いに何をしたらいいか困ってしまうと思うから、短時間でできることを考えてもいいと思う。

(アドバイザー 上村さん)

学校のPCはセキュリティが厳しく、YouTubeも見れない。さいたま市内の小学校はセキュリティが厳しいのでZoomは使えないかもしれない。埼玉県国際交流協会が、埼玉県に在住している外国人につなぐことにトビラ事業の意味があると思う。具体的な内容は思いついていないが、オンラインでも私たちのそばにいる、埼玉県に住む外国人ということが伝わればと思う。

(アドバイザー 芳賀さん)

私たちの周りに住んでいる外国人なんだという視点をもって展開することはとても大事だと思う。学校に行ったときに全体会で話しているような、多文化共生の視点の話はオンラインで伝えることもできると思う。

オンラインを活用する中で私たちが取り組んでいる内容というのは、中国の講師から中国製と書かれたものを探してきてと指示を出して、それをみんなで共有する。また、好きなお菓子を用意しておいてそれをみんなで共有するなど。日本人だから好きなものと同じではないし、外国人だから違うわけではない。国は関係なく同じ人として違いを感じることは楽しいし、同じことはもっと楽しいという多文化理解の意識を作っていくのに最適な学びとなっている。

現在のコロナ禍において、差別や偏見について学校でも問題になっている。そういう問題にも多文化共生の視点は有効だと思うので、今後取り入れて展開してってもらいたいと感じている。可能であれば、協会の募集チラシにも「こんなことができます」ということで多文化共生についての話ができることを入れてもらえれば、依頼のきっかけになるかもしれない。

(日本人講師・アドバイザー 金子さん)

トビラ事業は種まきだと思う。授業をきっかけに周りには外国人について目を向けたらそれで終わりではなく、今後につなげていければよりいいと思う。例えば授業の後にももらった感想に対して御礼の返事を渡すとか、学校の近所に住む講師がいたら、体育祭や文化祭に呼んで今後もつながっていけるようにしたり。コロナ禍の現在、ソーシャルディスタンスといわれているが、私は物理的には離れていても心は近くにいるというフィジカルディスタンスだと思っている。トビラ事業は未来をつくる仲間をつなぐ役割であってほしいと思う。今後、継続的なやりとりの要素も取り入れられれば持続可能なトビラ事業として前進するのではないかなと思う。

(日本人講師・アドバイザー 井上さん)

提案として、このコロナ禍だからこそ、まだ1回もトビラ事業をやったことがない学校に対して担当の先生をオンラインで招待してみるのはいかがでしょうか。そこでトビラ事業の実施の意味を伝える機会にしてはどうか。

◆意見・感想

(アドバイザー 市橋さん)

私自身はZoomの授業経験はないので研修が必要だと思った。オンラインを利用してない現状の派遣でもPCが必要な講師が10人いたとしても学校では5台しか使えるPCがなかったりする。さらに、必ず不具合で接続が悪いことがある。オンラインとなれば通信環境に苦戦しそうだと感じ

た。サポートが必要になることなどを考えても、1 クラス単位から始めるなど少しずつ進めていけばいいと思う。

(日本人講師)

今まで生徒の反応を見ながらできていたことが、できなくなるかもしれないので不安を感じる。小物を共有したりすることもできないのかと思うと、授業を組み立てる上での心配もある。やはり、オンラインに移行するとなれば、その為の準備は必要だと思う。今日の話の中であったように、心配や失敗の共有する機会は進めていく中で必要だと思った。

(日本人講師 山田さん)

オンラインになるなら研修を受けないといけないと思った。

(アドバイザー 佐々木さん)

スマホで参加したが、1 時間くらいしか通信環境が持たない。画面が消えてしまったりとところどころ聞き取れないことがあった。携帯電話を利用する方法は難しいと感じた。

(日本人講師 濱さん)

マイクの調子が良くなかったようで、協会側の声は聞こえているようだがお話ができない状態。

○まとめ

- ◆各学校の通信環境の確認は必須。
- ◆いきなりレベルの高いオンライン授業を始めるのではなく、少しずつできることをレベルアップしていけるように段階を踏んで進めていけばいいのではないかな。
- ◆オンラインに慣れている講師ばかりではないので、必ず研修をしてから依頼をする必要がある。
- ◆1つのステップとしてオンラインを使った協会主催の交流イベントや学校の先生向けに事業のPRの機会を設けるなどして慣れていくのはどうか。

資料1		コロナウイルス感染防止対策確認シート		Check ✓
参加者と講師の安全・安心のために行っていたこと	事前準備等	講師派遣決定後においても、場合により講師の変更や派遣人数の変更が発生することを踏まえて事業を計画します。		
		利用施設の定員（通常定員の半分）を厳守します。ただし、学校の場合はその学校の状況を考慮し、利用場所を提供します。		
		会場（学校等）において手指消毒を実施します。 （アルコールスプレー等をご用意ください）		
		「陽性者」の確認など、事業実施に支障をきたす事象が発生した場合は、速やかに協会のほか、アドバイザー又は講師に報告します。		
	飛沫感染リスクへの対応	参加者全員のマスク等の着用を徹底します。		
	密集・密接を避けるための対応	参加者及び講師が待機する際は、ソーシャルディスタンスを確保できる場所をご案内します。		
		休憩中も参加者及び講師がソーシャルディスタンスを確保できるように配慮します。		
参加者への対応	参加者の体温を測定して 37.5 度以上の方の参加を防止します。 （可能であれば、非常接触型体温計を使用してください。）			
	咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、味覚・聴覚障害、目の痛みや充血、頭痛、関節痛、下痢、吐き気、嘔吐の症状の有無について確認をし、症状がある方の参加を防止します。			
密閉空間を避けるための対応	1 時間に 1 回の休憩を取り、出入口の扉や窓を開放して換気を行います。			
陽性者発生時の連絡	参加者に「陽性者」が出た場合、速やかに当協会までご連絡ください。TEL：048-833-2992			
国際交流協会側が行うこと	体調管理の徹底	アドバイザー・講師は、事業実施日の 2 週間前から体調管理に注意して過ごします。	✓	
		アドバイザー・講師は、その体調につき、事業実施に支障をきたす可能性がある場合には、速やかに協会に報告します。	✓	
		アドバイザー・講師は前日・当日の検温を実施し、37.5 度以上の場合は事業に参加しません。	✓	
	飛沫感染リスクへの対応	アドバイザー・講師は常時マスク等を着用し、率先した手洗いと手指消毒を徹底します。	✓	
		事業実施内容について、グループ活動や配布物の有無、参加者による物品の共有などがある場合は事前の相談を徹底します。	✓	
陽性者発生時の連絡	アドバイザー・講師から「陽性者」が出た場合、速やかに連絡をいたします。	✓		

* 事業実施の 3 日前までに、(公財) 埼玉県国際交流協会 (FAX:048-833-3291) まで、ご提出ください。

確認日：令和 年 月 日 ()

事業実施日：令和 年 月 日 ()

団体名： _____



個人ブログやフェイスブックでの写真の利用について



写真をブログやフェイスブックに勝手に載せないよう、気を付けましょう！載せる場合は、担当者へ確認してからにしましょう！

授業内容については、アドバイザーと相談して決めましょう！

- ★ 私 はこんなことができる！
ダンス・楽器・歌・その他
- ★ イスの並べ方
- ★ 世界地図・マグネット・ハンガーの準備など

外国人講師のみなさんへ

コロナウィルス感染防止のために

- 授業の2週間前から体調管理に気をつけましょう。
- 前日と当日は体温を測って、37.5度以上あればアドバイザーさんへ連絡しましょう。
- 授業中もマスクをして、手洗いや消毒を必ずしましょう。
- グループ活動やみんなで使うものがある場合は確認してから授業をしましょう。
- 陽性が出た場合は必ず協会に連絡しましょう。

授業について

- 授業の日や時間を早目に確認しましょう。アドバイザーから連絡があったら、かならず返事をしましょう！
- 授業が始まる30分前までには、学校に着くように行きましょう。
- 説明するだけでなく、参加者に質問をしたり、考えさせる授業にしましょう。自分の体験を通して話しましょう。
- 授業時間を守りましょう！
- 授業中、参加者にプレゼントや食べものをあげる時は、必ず確認をしてからにしましょう。
- パソコン、CDプレーヤー、印刷物などの必要な準備については早めにアドバイザーに連絡しましょう！当日の資料印刷、パソコンやCDプレーヤーの準備はできません。

資料2



交通手段について

交通手段（電車・バス・車）を確認した後、変更しないようにお願いします。

行くとき、帰るとき、ほかの講師の車に乗ることを認めていません。自分の車で行く以外は、電車やバスを利用しましょう。

電車の乗り換えをまちがえないようにしてください。



の乗りまちがいが多いため注意！

